

テーマ：5月商業販売統計

発表日：2005年6月28日（火）

～小売業販売額は、前年比+2.7%と堅調な推移～

(No. J-50)

第一生命経済研究所 経済調査部

エコノミスト 齋藤 俊輔

TEL：03-5221-4547

(要旨)

- 5月の商業販売額は前年比+3.1%と12ヵ月連続の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+3.3%と12ヵ月連続の増加、小売業は同+2.7%と伸び幅がやや鈍化したものの堅調に推移した。
- 小売業販売額の内訳をみると、燃料小売業が前年比+15.7%と伸び率が鈍化したものの、全体の押し上げに大きく寄与した。自動車小売業も同+7.5%と前月に続いて好調を維持した。ただし、燃料小売業は石油製品価格の上昇による名目ベースでの押し上げという傾向に変わりはない。一方で、気温が低めに推移して夏物衣料品が伸び悩んだことを背景に織物・衣料・身の回り品小売業が前年比+1.9%と伸びがやや鈍化した。
- 先行きについても、雇用・所得環境が緩やかな改善傾向を辿っており、消費マインドも安定して推移していることを考えれば、個人消費は底堅く推移する可能性が高いだろう。また、夏季ボーナスも前年を上回る可能性が高く、個人消費にとって追い風となる見込みだ。ただ、今後の個人所得課税見直し論により消費マインドに悪影響を及ぼすリスクがあることは懸念材料となろう。

(単位：%)

		商業販売額										コンビニ販売額		
		卸売業				小売業		大型小売店						
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	百貨店				スーパー
既存店 前年比	既存店 前年比									既存店 前年比				
03	4-6月期	▲ 0.8	0.0	▲ 0.3	0.2	▲ 2.6	▲ 1.1	▲ 1.1	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 3.6	▲ 0.1	1.9	▲ 2.2
	7-9月期	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 2.2	▲ 0.9	▲ 2.0	▲ 4.3	▲ 3.0	▲ 5.2		▲ 3.9	
	10-12月期	0.0	1.7	0.4	2.6	▲ 1.2	0.3	▲ 1.9	▲ 3.2	▲ 2.3	▲ 4.0		2.2	▲ 1.5
04	1-3月期	0.9	▲ 0.8	1.1	▲ 1.2	0.2	0.7	▲ 0.5	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 3.0	2.2	▲ 2.1	
	4-6月期	1.3	1.7	2.4	2.5	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 1.9	▲ 3.9	▲ 2.9	▲ 4.6	2.1	▲ 1.4	
	7-9月期	3.4	0.9	4.5	1.3	▲ 0.3	0.4	▲ 1.5	▲ 3.4	▲ 3.0	▲ 3.7	4.3	1.1	
	10-12月期	3.1	1.0	4.2	1.0	▲ 0.4	0.3	▲ 2.0	▲ 4.5	▲ 3.8	▲ 5.1	2.1	▲ 1.1	
05	1-3月期	2.1	0.0	2.7	▲ 0.5	0.0	2.3	▲ 1.5	▲ 4.1	▲ 3.2	▲ 4.8	0.5	▲ 2.1	
04	5月	▲ 2.0	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 2.6	▲ 2.2	▲ 0.9	▲ 1.4	▲ 3.5	▲ 2.4	▲ 4.2	2.7	▲ 0.9	
	6月	3.3	2.1	5.1	2.4	▲ 2.5	0.1	▲ 2.9	▲ 5.0	▲ 5.4	▲ 4.6	▲ 0.5	▲ 3.8	
	7月	4.8	1.5	6.2	2.6	1.0	0.1	0.6	▲ 1.5	▲ 0.8	▲ 2.1	9.9	6.5	
	8月	3.6	▲ 1.2	5.3	▲ 2.0	▲ 1.6	0.4	▲ 2.8	▲ 5.4	▲ 4.7	▲ 5.8	2.3	▲ 1.0	
	9月	1.8	▲ 1.5	2.4	▲ 2.2	▲ 0.3	0.8	▲ 0.8	▲ 3.5	▲ 4.2	▲ 3.0	0.6	▲ 2.1	
	10月	0.9	3.0	1.4	3.4	▲ 0.9	0.1	▲ 1.6	▲ 4.2	▲ 3.5	▲ 4.7	2.1	▲ 1.1	
	11月	5.8	▲ 0.6	7.4	▲ 0.1	0.6	▲ 0.8	▲ 2.7	▲ 5.3	▲ 5.4	▲ 5.2	2.1	▲ 1.3	
	12月	2.7	▲ 0.4	4.0	▲ 0.5	▲ 1.0	0.2	▲ 1.7	▲ 4.2	▲ 2.8	▲ 5.3	2.2	▲ 0.9	
	1月	3.8	3.8	4.3	3.1	2.4	4.6	1.4	▲ 1.2	0.7	▲ 2.6	1.3	▲ 1.9	
05	2月	2.2	▲ 2.3	3.8	▲ 1.7	▲ 2.7	▲ 2.6	▲ 4.2	▲ 6.7	▲ 7.2	▲ 6.3	▲ 1.9	▲ 2.8	
	3月	0.7	▲ 4.8	0.9	▲ 6.1	0.3	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 3.2	▲ 5.5	1.9	▲ 1.5	
	4月	3.1	6.9	2.9	8.1	3.8	2.8	▲ 0.5	▲ 2.3	▲ 0.5	▲ 3.6	2.3	▲ 1.2	
	5月	3.1	▲ 3.5	3.3	▲ 4.0	2.7	▲ 1.5	▲ 0.7	▲ 3.1	▲ 1.4	▲ 4.2	1.3	▲ 2.0	

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

● 5月の商業販売額は前年比+3.1%（卸売業+3.3%、小売業+2.7%）

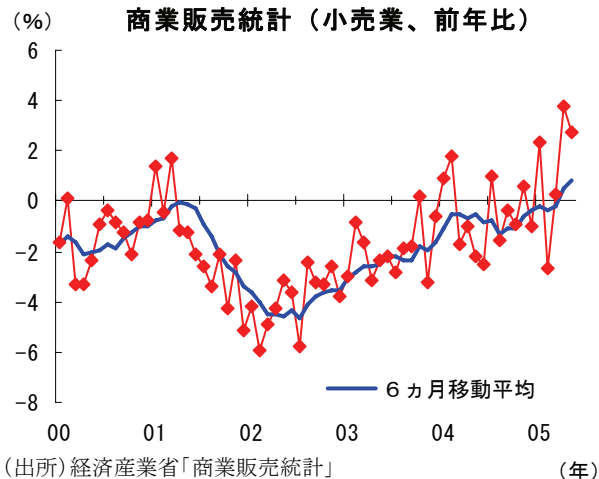
5月の商業販売額は前年比+3.1%と12ヵ月連続の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+3.3%と12ヵ月連続の増加、小売業が同+2.7%と伸び幅がやや鈍化したものの堅調に推移した。ただし、大型小売店販売額は前年比▲3.1%（既存店）とマイナス幅は再び拡大、業態別にみても百貨店販売額が同▲1.4%、スーパーは同▲4.2%とそれぞれマイナス幅は拡大した。小売販売額は事前のコンセンサス通り（中央値：+2.5%、レンジ：▲0.6～+3.7%）の結果であり、個人消費が底堅く推移していることを示した。

●自動車小売業は好調を維持したものの、衣料品はやや伸び悩み

小売業を業種別にみると、燃料小売業が前年比+15.7%と伸び率が鈍化したものの引き続き全体の押し上げに大きく寄与した。加えて自動車小売業も同+7.5%と前月に続いて好調を維持した。燃料小売業は、石油製品価格の上昇による名目ベースでの押し上げという傾向に変わりはない。一方、自動車に関しては、自販連の統計にも示されている通り、小型車を中心とした新車投入効果が継続していることに加え、5月は軽自動車販売も堅調に推移したためである。個人消費を考えるうえで重要な、貨物車やバスを除いた乗用車ベースを考えても高い伸びを維持している。一方、気温が低めに推移して夏物衣料品が伸び悩んだことを背景に織物・衣料・身の回り品小売業が前年比+1.9%と伸びがやや鈍化した。

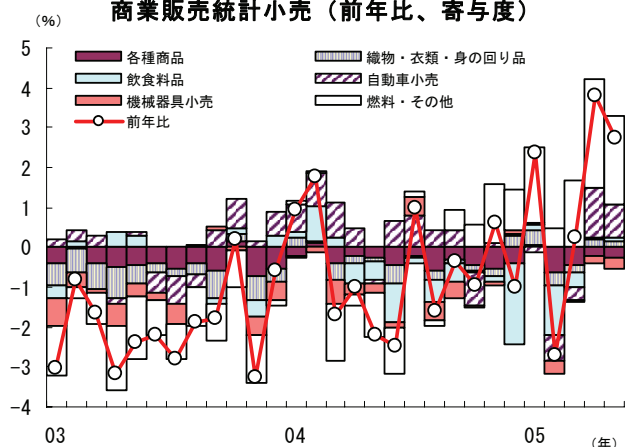
総じて好調であった前月に比べて伸びは鈍化したものの、天候要因などを加味すれば5月の小売業販売は底堅かったといえるだろう。

商業販売統計（小売業、前年比）



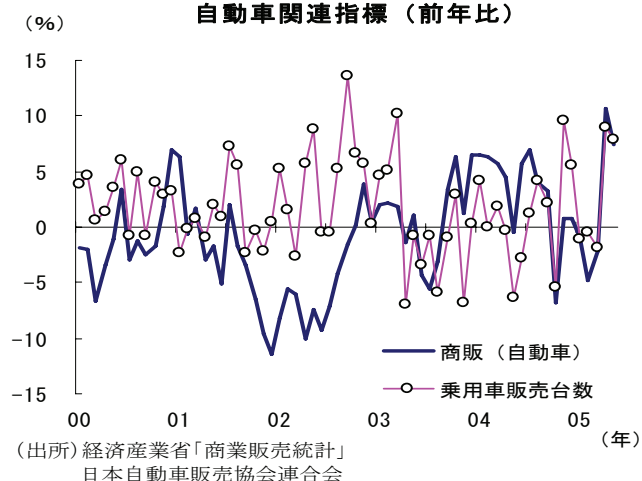
(年)

商業販売統計小売（前年比、寄与度）



(出所) 経済産業省「商業販売統計」

自動車関連指標（前年比）



●個人消費は底堅く推移する見込み

先行きについても雇用・所得環境が緩やかな改善傾向を辿っており、消費マインドも安定して推移していることを考えれば、個人消費は底堅く推移する可能性が高いだろう。また、夏季ボーナスも前年を上回る可能性が高く、個人消費にとって追い風となる見込みだ。しかし、エネルギー価格の上昇に加え、今後の個人所得課税見直し論（給与所得控除の見直し、退職金課税の強化、配偶者控除の見直しなど）により消費マインドへ悪影響を及ぼすリスクがあることは懸念材料となるだろう。

消費マインドの推移

